

1 今年度重点的目標

幼児期に必要な多くの経験や活動に主体的に関わることができる環境作りと保育の実践

課題

- ・友達と園生活を楽しみ、主体的に活動に取り組める環境作り
- ・基本的な生活習慣を身に付け自分の力で行動する

2 評価項目と取り組み状況

	評価項目	取り組み状況(1学期)	取り組み状況(2学期)	取り組み状況(3学期)
1	園内研修 積極的に園内研修やそのふりかえりを通して 保育の質の向上を図ること	年少 クラスの中で絵本を読むときや歌を歌うときは主担を 変えることはできたが、他クラスに研修は行けなかった。 年中 難しかった為2学期は取り入れていきたい。 年長 難しかった。2学期の初めに行えるといい。	年少 主担を交換し二人で日々の反省をすることができた。 経験が長い先生も研修を行えるといい。 年中 他クラスに研修はいけなかった。発表会の見学を行っ たり、研修のリトミックは取り入れられた。 年長 他学年に行く研修は行えなかった。発表会を通して、 練習の進め方や教え方を学ぶことができた。	年少 他クラスへの研修ができた。週3で主担任を交換で きた。 年中 音楽会での練習を通して、進め方や教え方を学ぶこと ができた。 年長 他学年の研修は行えなかったが学年全体で音楽会や卒 園式の進め方や、教え方などは見て、学ぶことができた。
2	情報共有 教職員間で必要な情報を精査し、的確な伝達と 情報共有、また情報共有により円滑な保育を 実践していくこと	年少 活動内容の変更等の共有ができた。 年中 必要に応じて情報を共有することができた。 年長 製作や絵画は保育者同士で確認できた。変更点も伝え 合えた。	年少 クラス内の二人同士の情報共有ができるようになる といい。職員会議ノートに書かない内容なども口頭で伝えると 良かった。 年中 必要な情報交換はできた。急な保育変更等の共有はを 内線使って行った。 年長 その都度変更点に応じて情報共有や確認をすることが できた。	年少 音楽会の練習の際の楽器の練習のやり方を共有でき た。ごっこ遊びを通して、他クラスの様子を見ることができ た。 年中 保育の進め方や必要な情報を共有できた。内戦の確認 も行うことができた。 年長 その都度変更点に応じて情報共有や確認をすることが できた。
3	健康を意識した環境作り 年間を通して十分に身体を動かして遊べる環境 を作り心身の発達を促す	年少 雨天時にホールでサーキットを行えた。スプリング ラーでの水遊びもできるといい。 年中 各クラスでルールのある遊びはできたが、自ら身体を 動かして遊べる環境づくりは行えなかった。 年長 多く行うことができなかった。学年で遊べる機会を増 やし、意識的に行えるといい。	年少 あまり行えなかった。音楽会前にマラソンを行ったり 戸外遊びの後に縄跳びを行えるといい。 年中 運動会後かけこやマラソンができた。ホール内で サーキット運動や踊りも取り組めると良い。 年長 クラス内では身体を動かせる機会を作ることができ た。学年で踊りを踊ったり鬼ごっこや大縄を使って、遊べる 機会を増やしていきたい	年少 マラソン大会を定期的に行った。マット遊びを体操以 外でも取り入れられるといい。 年中 学年全体でマラソンやリレー、サーキットに取り組む ことができたがもう少し回数を増やせるといい。 年長 学年で踊りを踊ったり、鬼ごっこや大縄を使って遊ぶ ことができた。クラス対抗でドッジボールを行うなど身体を 動かせる環境づくりができた。
4	安全 常に子ども達の生活環境の危険な箇所を意識して 未然に防げるよう配慮する	年少 危険な場所では常に声をかけることができた。 年中 朝の戸外掃除では安全に意識し、対応できた。 年長 子ども達が怪我をした場所などを保育者間で共有する ことができた。	年少 成長とともに力加減が難しく、危ない遊び方をしてい たので自ら気が付けるよう声掛けを行った。 年中 新入園児がたくさんいたので。ハサミの使い方や遊び 方の確認もできた。 年長 保育内では危険なことがあったら、なぜ危ないかまで 子ども達に聞くことができた。階段付近の物の置き方など事 故を未然に防げるよう配慮していく。	年少 廊下を走っている子が多いので声掛けだけではなく、 ポスターを貼れるといい。 年中 中庭の遊び方を再度確認した。バスで登園してきた子 が廊下を走ることが多いので視覚的に子ども達が意識でき るようにしていきたい。 年長 就学前で気持ちが浮ついてしまい廊下を走る子がいた ので室内での過ごし方を再度確認した。

5	子ども達が主体的に関われるような保育内容のアイデアを保育者同士で出し合い実践する	<p>年少 子ども達が主体的にというのは難しかった。</p> <p>年中 ごっこ遊びを行う際に進め方等を子ども達が主体的に取り組めるよう共有できた。</p> <p>年長 一人で進めるのではなく、学年で見せ意見を出し合い、実践することができた。</p>	<p>年少 ドングリを使った遊びを行うことができた。チャイルドブックを参考にしたり週案で各クラスで作ったものを話し合えるといい。</p> <p>年中 子ども達の遊び方に合わせてアイデアを保育者間で共有することができた。</p> <p>年長 ドングリ拾いなどで拾ったものを使い、子ども達と行った活動を保育者同士で確認できた。</p>	<p>年少 廃材を使いごっこ遊びを行う中でハサミを多く取り入れることができた。</p> <p>年中 お正月遊びを子ども達から意見を出してもらい行うことができた。参観日の内容を保育者同士で話し合えた。</p> <p>年長 お正月遊びの子ども達の意見を取り入れ、行った活動を保育者同士で共有できた。</p>
---	--	---	---	---

3 総合的な評価結果

年少：基本的な生活習慣は繰り返し行うことで身に着けることができた。子ども達が安心して過ごせるよう声掛けをし、保育者同士でのアイデアを出し合い、保育を行うことができた。

年中：子ども達の意見を聞き、玩具を作ったり、遊びを計画した、ポスター等を張って自ら気付いて行えるようになってきている

年長；行事などでも子ども達の意見を取り入れたり、就学が意識できるような声掛けを行い子ども達が自分で考えて行動できるよう働きかけができた結果どの活動も活発な意見交換ができるようになり、どの活動においても主体的に活動にかかわれるようになってきた。

4 今後取り組むべき課題

- ・子どもたちが主体的に関わっていけるような環境作りを次年度に引き続き行っていく。
- ・研修は全学年が柔軟に対応しながら行えるよう時期など具体的に計画に取り入れておこなっていく。(主活動だけでなく、着替えや排泄等への援助も見て学べるといい。)
- ・職員間の情報共有はよりの確・正確に共有できるようにあらゆる媒体の利用や職員間でのコミュニケーションをはかれるよう環境を整えていく。
- ・行事にとらわれず、身体を動かせる機会を多く設けていく。